

専門家の生活環境

今回の調査により、C / P 機関を林業農園研究開発庁森林自然保全研究開発センター及び林産研究開発センターとし、プロジェクト・オフィスをボゴールの林業農園研究開発庁林産研究開発センター内に置くことでインドネシア側と合意したので、日本人専門家、インドネシア側 C / P 共にボゴールで活動することになった。

ボゴール市内には、マタハリ、ヘロ等地元系スーパーが数軒あり、生活物資の購入が可能であるほか、電気、ガス、水等の供給、また、(専門家宅への窃盗が 1 件あったが) 治安も概して平穏であるので、専門家の生活環境については特段の問題はないと考えられる。

ただし、日本人学校が無いいため、就学年齢の子女を同伴する専門家の場合は、ジャカルタ居住も考えられる。この場合、日本人の多く住むジャカルタ市南部地域からプロジェクト・オフィスへの通勤には、高速道路を利用して約 1 時間を要することになる。

上記により、専門家の居住場所は、専門家各人の事情等を考慮し、ボゴールかジャカルタに決定するのが良いと考える。

なお、ボゴールに本拠地を置く「森林火災予防計画プロジェクト」では、5 月現在専門家 6 人中 3 人がジャカルタ、残り 3 人がボゴールに居住している。